

高田駒次郎先生の思い出

監査法人トーマツ パートナー・公認会計士 磯 俣 克 平 (81期)

「かっぺい！勉強せんと しゃがるっぞ！」
今でも学生時代遊んでばかりいた私を叱咤する先生の声を鮮明に思い出すことがあります。

私が高田先生の教を受けた昭和50年台前半は、高田駒次郎ゼミがある意味最も興隆した時代であったかもしれません。当時、先生のゼミは野球部を中心とした体育会系の学生が集まる「人格形成コース」と公認会計士や税理士を目指す学生が集まる「真理探究コース」の2つのゼミがありました。勿論、共に先生が冗談で名付けた名称でした。両ゼミは



故高田駒次郎先生（中央）と個人的に写った数少ない写真のひとつ。左は、西武ライオンズ選手で高田ゼミ先輩の蓬萊昭彦さん（80年商卒）。1981年撮影

授業以外では先生を中心に共に活動することも多く、高田先生のお宅では後に大洋ホエールズへ入団した門田先輩や西武ライオンズへ入団した蓬萊先輩にお会いすることが度々ありました。当時の野球部は、九州6大学リーグで、常に福岡大学や八幡大学と優勝を争う強豪チームであったため、西福岡戦に学生が大挙して平和台へ応援に行き内野スタンドが一杯に埋まったこともありました。今思うとあの時代が西南学院大学の学生が野球の応援を通して最も仲間意識を持っていた時代だったのかもしれない。そして、その中心にいたのが高田先生でした。

真理探究コースに席を置いていた私でしたが、遊び仲間とサークルを作り毎日遊んでばかりいたので、いつも先生に叱られていました。

そんな私が、4年生になり公認会計士を真剣に目指そうと決意し、東京で勉強したいと先生に相談にいった時、先生は「ゼミの心配はせんで良いから東京へ行って必死で勉強して来い！」と初めて勉強する意欲を見せた私を嬉しそうに見つめながら、東京行きを許して下さいました。そして4年生の夏に上京して、東京で澤村先輩をはじめ多くの方のお世話になりながら受験勉強をし、運良く2年で公認会計士試験に合格し、この世界に入りました。

「人間、どんな奴でも何か良いところはあるもんだ」先生がよく口にされた言葉です。

何かの縁で出会った人達とは誠意を持って付き合うことを先生は教えてくれました。今は大企業のトップや、ベンチャー企業の若き経営者を相手に仕事をする機会が多く、いろんな人達と出会いますが、高田先生に教えていただいた人との付き合い方が私の仕事の原点になっています。海外で仕事をする機会も増えてきましたが、それは欧米人との付き合いでも同じです。

私が先生から一番教わったことは、監査論でもなければ会計学でもなく、人に愛情を持って接する人間学だったと思います。

私が最後に先生の顔を拝見したのは、私が米国駐在へ旅立つ前に大学を訪問した時でした。当時、先生は既に体調を悪くされており、私が在学していた頃の元気な先生の面影はなく、随分お辛そうなお様子でした。海外と関係のある学内の教授や職員の方を何人かご紹介いただき、1号館の玄関でお別れをする時になって、先生は私の肩をたたきながら、「かっぺい、俺はお前には負けたよ。アメリカに行ってもアメリカ人に負けるなよ!」と笑いながらおっしゃいました。それが、先生が教え子である私に残した最後の言葉でした。先生ご自身が残された時間があまり長くないことを既に自覚しておられたと思います。エントランスのポーチに佇み、二度と再び会うことがないであろう私の旅立つ後姿を先生はずっと見送って下さいました。

それから1年後の秋、テキサスに住む私のもとに先生の訃報が届きました。

先生は、若い時に公認会計士を目指し、海外への夢をお持ちだったと聞いたことがあります。先生の夢を私が代わりになかえたのであれば、それはそれで少しは先生にご恩返しが出来たのかなと自分を慰めています。

先生と出会わなければ、私の人生は今と随分違ったものになっていたと思います。私が微力ながら九州経済や日本経済に貢献しているとすれば、それは一重に先生のご指導のおかげだと思っています。私が仕事で手を抜けば、また先生の声がどこからか聞こえてきそうです。

「かっぺい!真面目に仕事せんと しゃがるっぞ!」

国家試験に挑戦しよう

試験は?勉強方法は?

合格者に聞く



松岡 さん
(司法試験合格)

▽試験 △
確保 一次試験は大学の教養課程を修了しては免除される。二次試験は七科目(簿記論、財務諸表論、原簿計算論、監査論、経営学、経済学、商法)です。各科目マークシート方式で三時間ずつ行われます。その合格者は七、二次試験合格後、会計士補として一年間の実務補習。そして二年間の実務経験を積んだ後に受けられます。三次試験は、実務経験を十分に積んでいなければ必ず合格できるようです。これに合格すると、正式に公認会計士になります。松岡 一次試験は公認会計士と同一科目(簿記論、財務諸表論、原簿計算論、監査論、経営学、経済学、商法)の四科目(必須科目)と刑事訴訟法が民事訴訟法のいす

昨年、本学の卒業生である松岡茂行氏(昭54法卒)が司法試験に、磯俣克平氏(昭56商卒)が公認会計士試験(二次試験)にそれぞれ合格した。いずれも、合格者が一・七八パーセント。司法試験は、六・五パーセント(公認会計士試験)という難関を突破しての合格だった。本紙ではお二人に登場願ひ、これから試験に挑戦しようという学生のために、勉強方法についてのアドバイスを語ってもらった。

目的意識をしつかりと

講座などにも積極的に参加を

▽勉強方法 △

確保 在学中は第一国家試験準備に集中する人たちの中に入って研ぎを研ぐことは大切だと思ひます。西南にも司法試験準備講座があります。昨年は司法試験の講座に二人いたのですが二人とも一試験に合格してしまふ。そういう講座をぜひ利用して入塾可能です。やはり本人の努力次第だと思ひます。しっかりと目的意識をもつて、二年間勉強に専念すれば必ず合格できます。

松岡 松法会といつて、九州になつた人は、いつも聞きに来てください。第一国家試験準備室を訪ねていただければ連絡がとれますから。

▽学生諸君に

ひとこと △



磯俣 さん
(公認会計士二次試験合格)

西南学院大学広報第67号(昭和59年1月26日)